

安芸川支部 飯原捨吉

余、大正九年、入社シタル當時、官守社長其他人如斯、
中、心ハカリキ然ルニ彼等、官守ニ自勵車ヲ純トシ、
揚々トシテ我等勞働者ハ人同視シ居ラサルモノ、如シ然レト
シ我等勞働者ト雖、日頃讀書ヲ爲シ社會上ニ於ケル事物ノ
判断ニ苦シムコトナレ、今、官守労働者議ニ於テ、腕力ヲ振フカ
如キ不合理的ヲ爲スニ非スシテ紳士的ニ資本家ヲ兼ラムトスル
モノナリ、資本家ハアラユル方法ヲ以テ、黄金ノ力ニ依リ官守ト
共ニ我々ヲ壓迫シ居レリ、官守社長ノ暴横、甚シキト謂フヤレハ
カラス、官守社長カ幾億圓ノ資本ヲ有スルハ、我等労働者アルカ
等ナルコトヲ知ラサルカ云々

女愛會支部 島 種吉

我々ハ電業員、其議ニ對シテハ、傍觀ノ態度ヲトリ、未リシモ
會社カ九百名、電業員ヲ裁首シ、新ニ職ニテ雇入レ、而モ
其門前ニハ鉄條網ヲ張り、警官之ヲ警戒スルヲ見テ、蹶然起
ツテ正義ヲ要求シ、貫徹セシムヘク、此舉ニ參加シタルナリ、我々同志

ノ調査ニヨリ、官守之惡辣ナル手段ヲ用ヒテ、電業員ヲ誘引セムト
スルハ、之ヲ檢束シ、會社側カ我々同志ヲ誘引スルトキハ、傍觀ノ
態度ヲ執リ、資本家ノ手ヲ引テ、我々居レリ、茲ニ於テ我々勞
働者ハ一致協力シテ、結束ヲ堅メ、勝敗ヲ度外視シ、目的ノ貫徹ニ
努力セサルヘカラス云々

造船労働組合 飯石豊一

警官ハ我々労働者ヲ援助保護スルヲ以テ、本務トセサルヘカラス、
不均我々労働者ヲ壓迫スルコト、實ニ甚クシ、此意味ニ於テ、資本
家ト官守トハ密接ナル關係ヲ有スルモノト云ハサルヘカラス、而シ
ナカラ官守ト雖、官守得ル爲メニ我々ヲ壓迫スルモノナリ、此ハ
我々亦識首セラレ、生活ヲ維持スルコト能ハサルトスレハ、監獄ニ行
キ、官守得ヤルヘカラス(注意)併シ我々ハ官守ト喧嘩スルモノ
ニ非ス、官守社長ト喧嘩スルモノナリ云々

大電問題ハ、連ナル電燈會社ト其獄ニト、問題ニテラス、資本
女愛會、三組合、以藤澤、猛